

稲作



気象変動に対応した
育苗管理の徹底を！

1. 浸種・催芽作業のポイント

① 浸種 浸種は、発芽を揃えるために種子に十分に水を吸わせる作業です。浸種水温は、消毒効果の安定や発芽ムラを無くすために10～15℃を確保してください。浸種期間は10℃の水温で6日間程度、水量は種子1kgあたり3～5リットルとします。

② 浸種時の水交換

浸種開始後から2日間は水を交換したり、種子袋を動かしたりしないください（この間に種子が消毒されます）。その後は、1日おきに水を交換します。水を透かしてみて、胚が白く見えるようになったら浸種終了です。

③ 催芽

催芽は芽の長さを揃えるために必要な作業です。発芽適温の30～32℃で行いますが、袋内部の種子まで均一な温度になるよう、あらかじめ36～40℃の温水で湯通しを行います。芽の長さはハト胸程度（1mm）とし、伸ばしすぎないようにしてください。

い（図-1）。

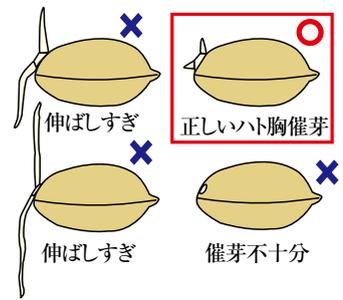


図-1 催芽の程度

2. 出芽・育苗期間の管理

① 温度の管理

播種後の出芽長は0.5cm（中苗の場合）を目標とします。目安は、加温出芽（育苗器使用）では2日程度、無加温出芽（シールポリ等使用）の場合は5日程度です。出芽長を伸ばしすぎると出芽が遅れやすくなるので注意が必要です。

細菌病等の助長を防ぐため、出芽までの温度は32℃を超えないようにし、再被覆は行わないでください。

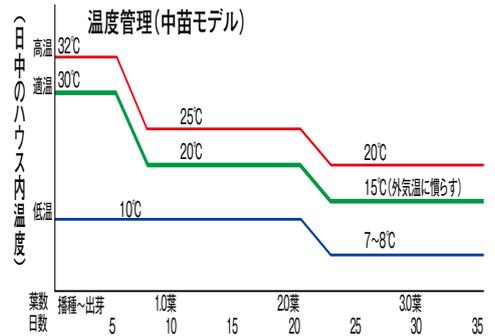
出芽後～2葉期頃までは、日中は最高気温25℃以下、最低気温5℃以上を保ってください。

2～5葉期を過ぎたら、特に寒い日でもない限りハウスを開放し徐々に外気温に慣らしてください。

② 水の管理

かん水の時間帯は早朝を基本とし、遅くとも午前中に行ってください。かん水は分量行い、回数は

できるだけ少なくしてください。



営農行事案内

健苗育成に向けて、
苗代巡回を実施します。

組合員からの育苗管理の相談・指導のため、苗代巡回を実施します。苗半作といわれるように、健苗は豊作の基本なので、細やかな管理を心掛けます。

開催時期

4月23日(水)～25日(金)

能代地区

4月30日(水)～5月1日(木)

二ツ井地区

5月1日(木)～2日(金)

藤里地区

※各地区における集落ごとの巡回時間・集合場所については、外務で配られる資料を参照してください。

青果物・花卉の種苗費助成 (出荷拡大助成)について

青果物・花卉の作付拡大を目指し、JAでは重点5品目（ねぎ・みょうが・キャベツ・山うど・アスパラガス）の作付面積拡大部分について『20,000円/10a助成』と、特産品花卉栽培「りんどう」振興拡大のため、作付拡大部分に『40,000円/10aの種苗代金助成』を行います。

詳しい助成内容の要綱等につきましては、営農経済課(55-0777)へお問い合わせください。

